

# いわみざわ アートアカデミー

## 成果報告書



主催 北海道岩見沢市

令和5年度 文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」





## ごあいさつ

岩見沢市では、令和3年度から、北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント美術研究室のご協力のもと「いわみざわアートアカデミー」を開催しており、今年度で3回目となりました。

学校卒業後の障がいのある人が北海道教育大学岩見沢校の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞や創作について学びます。講座では実際に作品の制作を行い、その成果としてギャラリーで展示会を実施しました。

今年度、岩見沢市は開庁140年、市政施行80周年、北海道教育大岩見沢校は創立100周年という記念の年を迎え、また、過去2年の「いわみざわアートアカデミー」から見えてきた課題に対応するため、新たな取り組みに挑戦しました。

ひとつは、岩見沢市で有志の実行委員会が開催するアート展において、一般の人と障がいのある人が共同でひとつの作品を作り上げるワークショップを企画しました。

もうひとつは、アートアカデミーの会場に直接出向くことが難しい人たちへ、学校在学中から卒業後の学びの場を知ってもらい、継続した学びに繋げるため、岩見沢高等養護学校に大学生を講師として派遣する「出前講座」を行いました。

参加者からは「楽しかった。また、やってみたい。」などたくさんの好意的な言葉をいただき、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指すという目標に向かって事業を進めるなかで大きな励みになりました。

この報告書は、本事業の成果をご報告するとともに、障がいのある人の学びを活発にしていくため、アンケートの実施結果などから課題を明確にし、今後の取り組みの参考になればという思いで作成いたしました。

結びとなりますが、いわみざわアートアカデミーの開催にご協力いただきましたみなさまに、心から感謝を申し上げます。

2024年3月 北海道岩見沢市



## Contents

ごあいさつ	1
実施概要	2
創作体験・創作学習会	3
芸術鑑賞学習会	4
展示実践学習会	5
新たな取り組み	6
まとめ	7
アンケート	8～13
資料集	14～16

# いわみざわアートアカデミー 実施概要

## 実施目的

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学岩見沢校の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画にかかわることで自己実現を図る。

また、芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

## プログラム

### ○創作体験・創作学習会

様々な画材を使った創作体験会を開催し、画材や画法、創作技術について学びを深める。

障がいのある人とない人が一緒に作品を創作する環境を作ることにより、障がいへの理解を深める場とする。

### ○芸術鑑賞学習会

北海道教育大学岩見沢校の教員・学生らの解説により、大学敷地内のギャラリーで行う美術展の作品を鑑賞する機会を持ち、作品に込められた思いや表現の工夫など、鑑賞する楽しさを感じてもらう。

### ○展示実践学習会

実際に参加者自らが制作した作品の展示についての企画運営に携わる。

展示ボランティアとして北海道教育大学の学生等にも参加してもらい、障がいのある人とない人が協働する場とする。

## 参加者数

28名（定員20名）

## 連携協議会

岩見沢市健康福祉部福祉課  
岩見沢市教育委員会事務局生涯教育部生涯学習推進課  
北海道教育大学岩見沢校  
北海道アールブリュットネットワーク協議会  
いわみざわハート&アート実行委員会  
社会福祉法人北海道社会福祉事業団福祉村  
障がい当事者  
北海道岩見沢高等養護学校

（敬称略）



# 創作体験・創作学習会

創作体験・創作学習会では、講座毎に異なるテーマを設定し、受講者に毎回新しい発見があるように内容を工夫しました。

講座では、サインペンやパステル、絵の具など多様な画材の紹介・技法に関する講義と創作活動に加え、プラスチック板を使ったキーホルダーの制作を行いました。

講座の説明では、知的障がいのある人にも分かりやすく伝えられるように写真やイラストを活用した資料で解説しました。

また、ペンディングナイフなどの専門道具の使い方やプラスチック板での作品製作についても、各テーブルに学生がついて実演しながら、丁寧に説明しました。

## <第1回>2023年10月11日(水)

さわる：さまざまな画材に触れる

## <第2回>2023年10月18日(水)

ひろげる：創作の幅が広がる体験を行う

## <第3回>2023年10月25日(水)

みせる：作品で誰かに表現を届ける

講師：北海道教育大学岩見沢校

アートマネジメント美術研究室

三橋純予教授、研究員の皆様(大学生)



知的障がいのある人にも分かりやすいように丁寧に説明を心がけました。ろうあ者もご参加いただいたので、手話通訳者を配置するほか、学生も事前に手話を勉強し、自己紹介を手話で行いました。(左)

三橋教授の挨拶(右)



講座の最初に、画材や技法について解説しました。専門的なことも分かりやすく説明するよう心がけました。(左)

各テーブルに学生がつき参加者をサポートしました。画材や道具の使い方は、実演しながら説明しました。(中央)

プラスチック板を熱する作業は学生が担当し、プラスチック板が熱で縮む様子を受講生に観察してもらいました。(右)

講義で使用したスライド

学生が、どうすれば伝わりやすいものとなるか考えながら資料を制作しました。ポイントを絞った言葉選びと、写真やイラストを活用した視覚的資料で、より分かりやすく伝わるよう工夫しました。



# 芸術鑑賞学習会

北海道教育大学岩見沢校のシアタールームを会場に、鑑賞の講座を行いました。

全3回の創作体験・創作学習会で参加者が創作した作品をプロジェクターで映し、それぞれがどのような考えや思いで創作したのか、ほかの参加者の作品に対する感想等を発表し合いました。

また、北海道教育大学岩見沢校の校内見学や、敷地内にある「森の岩ギャラリー」で開催していた展示会「夕張展」に参加者が来場し、大学教員や学生らの解説により、古き良き時代の夕張市の風景画などの作品を鑑賞しました。

## <第4回>2023年11月8日(水)

あじわう：自他の作品を自由に感じ想いを伝えあう



### 鑑賞の様子

本格的なシアター施設を会場に実施しました。参加者一人ひとりの作品を全て画像データに記録し、プロジェクターを使ってスクリーンに映写しました。

### 作品発表の様子

参加者が自分の作品に込めた想いを発表しました。また、自分の作品だけでなく、他の人の作品への感想などを伝え合いました。

みなさん嬉しそうに自分の絵のことを話してくれました。褒めたり褒められたり、どちらも楽しそうな様子が伝わってきました。



教育大岩見沢校の校内見学の様子。



森の岩ギャラリーで開催中の夕張展に参加者が訪れ、教員や学生の解説を聞きながら、ゆっくりと作品を鑑賞しました。



# 展示実践学習会

アートアカデミーでの活動の集大成として、北海道教育大学岩見沢校内の「森の岩ギャラリー」にて、創作体験・創作学習会で制作した作品の展示会を行いました。一般的な額装のほか、アクリル板で作品を挟む方法、クリップで作品を連結する方法、展示台を活用する方法など、作品の見せ方も工夫し展示技術の習得を図りました。

設営・運営には学生も参加し、作品のレイアウトなどは現場で相談しながら調整しました。

作り手の想いが伝わるよう、参加者一人ひとりにタイトルを考えてもらい、一つずつ丁寧にキャプションを付け、作品が映えるように照明を設置するなどの展示作業を行いました。

展示会名: いわみざわアートアカデミー  
「OUR LIFE is OUR ART !」  
会 期: 2023年11月30日(木)～12月6日(水)  
会 場: 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」  
出展数等: 30名、140作品



フライヤーデザインには参加者の作品を採用



## 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

大学の「キャンパス活性化リノベーション事業」の一環として、倉庫として使われていた古い浄化槽設備を改修したギャラリー(令和3年1月完成)

出入口から円を描くように一周できるようになっており、中心は小さな円の部屋を通り抜けられるという特徴的な構造になっています。

円形という構造を活かしたレイアウトを考えました。

基本は参加者ごとにひとつの壁面を割り当て、作品がまとまって展示されるように配置したほか、作品の種類や大きさによって、見栄えのするように配置や照明を当てました。

中心の部屋には、ワークショップで制作した作品を展示しました。





# 新たな取り組み

これまでのアートアカデミーで培った経験から、今年度の新たな挑戦として、2つの取り組みを行いましたのでご紹介いたします。

## <取り組み①>2023年10月4日(水)～10月8日(日)

### 「いわみざわハート&アート2023」でのコラボワークショップ「出会いの木・想いの実」

「いわみざわハート&アート」は、障がいのある人もそうでない人もアート作品を通じて相互理解を深めることを目的に、市内の有志である「ハート&アート実行委員会」により毎年岩見沢市内で開催されている展示会です。

「出会いの木、想いの実」というワークショップのテーマは、学生のアイデアによるものです。

障がいのある、なしに関係なく、様々な人と出会い、関わりを实らす場所として「白い木」を配置し、大小の木をつなぐ紐に、想いや願い、好きな絵を描いたガーランドを「実」としてつりました。

作品を介して人と人との繋がりを表現したもので、共生のまちづくりを考えるうえで、一つのきっかけになれたらという想いを込めて企画しました。



## <取り組み②>

2023年11月20日(月)

### 岩見沢高等養護学校への「出前講座」

美術の時間に、大学生が教えるという、いつもと違った新しい感覚の授業であったことから、生徒さんたちは楽しそうに学んでいました。

テーマを決めず自由に描いてもらうことで、大胆な発想や色使いが生まれ、養護学校の先生も、生徒たちがこういう表現もできるんだということに関心されている様子が見られました。

また、ご協力いただいた岩見沢高等養護学校の先生方からは、「北海道教育大学岩見沢校とつながり、障がいのある人たちの生涯学習に結びつくものとして、とても有意義な取り組みで、つながりをさらに広げて展開できたらいい」、「大学生たちは、養護学校の生徒一人ひとりにとても丁寧な対応をしてくれた。今後も継続できたらいい」等のご意見をいただきました。生涯学習として障がいのある人の学びを循環させるという出前講座の目的に少しでも近づけたのではないかと思います。



いわみざわアートアカデミーの開催の様子をダイジェスト映像にし、岩見沢市公式YouTubeに掲載しました。



岩見沢市公式YouTube



まとめ

# 学校卒業後の障がい者の生涯学習としての芸術文化

## 1 誰もが楽しめる学びとしての芸術文化

アートアカデミーは、市が共生社会の実現を目指して取り組んでいる障がい者の文化芸術活動の支援を「障がいのある人の生涯を通じての学び」という視点で見つめなおし、芸術文化とスポーツに特化する北海道教育大学岩見沢校との連携のもと、北海道アールブリュットネットワーク協議会や障がい福祉事業所の方々など、関係各位のご協力をいただきながら開催しました。

昨年度に引き続き3回目の開催となり、今回も幅広い年齢層の方々、身体・知的・精神それぞれの障がい種別の方々にご参加いただきました。「障がいのある人の生涯学習」としての「芸術文化」は、障がいの種別に関わらず、誰もが楽しめる可能性があると考えています。

今回は、創作の幅を広げるための学生のアイデアから、

「プラ板」を創作の時間に盛り込みました。熱を加えることにより大きさが縮んで固くなる特性を活かし簡単にアクセサリができますが、加熱の作業だけは学生が担当することにより、初心者にも安心して参加できるよう配慮しました。加熱前後の大きさの違いなどを説明し、楽しく絵を描いて出来上がった作品について、思いどおりの縮み方でなかったとしても、それぞれの出来を楽しんでいる様子が印象的でした。

プラ板の発想だけでなく、コラボワークショップでのアイデアについても、「障がいがあるからできない」ではなく、「障がいの有無に関わらずできるように工夫する」ということを、福祉の経験がない学生が発案したこと、この事業の着実な進歩と今後の発展への可能性が感じられました。

## 2 障がいのある人が参加しやすい学びの場とするために

今回のアンケートでも、ほとんどの参加者が「アートアカデミーに参加して楽しかった」、「芸術文化を学ぶことについて関心が高まった」と回答しました。また、新たな取り組みとしてのコラボワークショップや出前講座についても、「楽しかった。またやってみたい。」という回答をたくさんいただいたことにより、企画から準備や作業、そして講師と、大活躍だった学生さんたちの苦労も、喜びや充実感に変わって行ったことと思います。

多様な障がい者が参加しやすい学びの場とするためには、コースをいくつかに分けて、自分の参加しやすい回数・時間・内容を選べるようにするという方法がありますが、インクルージョンの観点からは、「出入り自由・自分が参加したいところだけ参加できる講座」とすることも有効な方法ではないかと考えています。今回も、休憩時間を長めにとったり、講座の途中で別の技法を教えたりするなど、飽きないで受講でき

るよう工夫を凝らしました。

一方で、参加者全てのニーズに応えるのは難しい側面もあります。主催側だけでなく参加者に付き添って一緒に受講される人や、関係各位のご協力により当事業が成立していることは言うまでもありません。この取り組みの意義をご理解いただき広げていくために、様々な意見を取り入れながら改善していく必要があると思います。

また、学びの場があることを知らずに過ごす人も多いため、これからも積極的な情報発信や情報交換が必要であると感じております。新型コロナウイルス感染症による影響も緩和されてきたため、今回の出前講座を実現することができました。こちらから積極的に外に出向くことにより、新たな情報発信ができるものと考えており、こうした学びの場があることをより多くの人に知っていただくための活動を継続して行きたいと思っております。

## 3 実践研究の今後の展望

「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」としての取り組みについては、今年度で最後となりました。

これまで講師として参加した学生の中からは、就職先として障がい福祉事業所を選択する人も出てきております。

障がいのある人の生涯学習としての芸術文化の取り組みを通じて福祉への理解と関心が高まり、今度は仕事を通じて障がいのある人を支援する道へ進むことは、共生社会の実現を目指すという大きな目標に向かっての新たな一歩となる大切な兆しの現れであり、大変喜ばしい傾向であると思えます。

また、参加者の中から、今度は教える側にもチャレンジしてみたいという声もいただきました。教わる側から教える側に

なるという循環を生み出すことは、いわみざわアートアカデミーの目的と重なるものであり、地道な活動の積み重ねにより、こうした人が次へと続いていくことが、障がいへの理解促進と障がいのある人の学びの場という居場所づくりにつながっていくものと考えます。

今後においても、大学や関係機関等とのつながりを大切にしながら、芸術文化をテーマに、障がいのある人が参加しやすい取り組みについての研究を重ねていきたいと思えます。

結びとなりますが、障がい者の生涯学習を推進しようとするの方々にとって本報告書の内容が少しでも参考になれば幸いです。

いわみざわ  
アートアカデミー  
アンケート



# いわみざわ アートアカデミー 参加者アンケート

## ●年齢

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
0	8	1	4	6	5	0	24

## ●アートアカデミーを何で知りましたか？

チラシ	メール	新聞	HP
12	0	0	0

※その他回答内容：市役所、職場、家族から

友人知人	その他	無回答
3	9	0

## ●アートアカデミーに参加してどのように感じましたか？

	良かった	悪かった	不参加
第1回	7	3	0
第2回	10	4	1
第3回	8	1	0
第4回	7	2	0

(自由記載)※原文まま

- 初めてさわる画材もありました。
- 参加できる機会が得られて良かったです。自分自身、画才はないですが楽しめました。
- 何をどうすれば良いか、初回はドギマギしてしまいました。
- 普段使わない道具に触れられて良かったです。
- 描くことが楽しく、どんどん描けた。
- ガーランドを知れて良かった。
- みんなの作品の感想を伝え合うのが良かった。

## ●講座の回数や時間について

回数	多い	少ない	ちょうどいい	無回答
	3	5	14	2

時間	長い	短い	ちょうどいい	無回答
	5	2	14	3

(自由記載)※原文まま

- 時間を自由に使える、じっくりと取り組めるので良い時間だと思います。
- 参加者の集中力の持続性・付き添い(お連れ出し)の職員の都合の面からも、少々時間が長いと思った。
- わからない
- 対象者の状況によるかもしれません。

## ●(自由記載)講師や講座の内容について

### 講師について

- もっと色々な人と話がしたい。
- 学生さんが講師で親しめました。肩肘張らずにできました。
- 講座という感じではなく、画材を提供し自由に…、というコンセプトなのだなと感じました。自由も良いですが、何か提案や画材の使い方などの指南があっても良いかと思いました。

### 講座の内容について

- アクリル絵の具などの使い方、描き方をしっかり教えてほしい。
- 具体的な課題(方法・技法)の提示があった方が良い。

## ●芸術文化を学ぶことについて関心が高まりましたか？

高まった		変わらない		無回答
14	5	0	3	2

## ●障がいのある人が学校卒業後の学びを深めるためにはどんなことが大切だと思いますか？

- 自分のやる気が大事だと思います。
- とても自分の為になりました。
- 暮らしの近くに、このようなチャンスがあると良いです。
- 美大では、なかなかこのような機会がなく、教育大の協力のもとでこのようなチャンスを得ることが出来て、感謝しています。
- このような機会やイベントが沢山あると良いと思いました。興味を持っている障がい者が、一歩踏み出して参加してみようと思える働きかけまでを考える必要があるのかなと思いました。
- スタッフが視覚的に利用者さんに教えていくことが大切だと思います。
- 人にやさしく、みんなと仲良くすることが大切だと思います。
- 他の方々との関わりをもっと多くするべき。一緒に楽しめる事がもっと多いといいですね。
- イベントの開催が沢山あればと思います。
- 自分も創作に関心が無く、いきなり指名されても何から描けば良いのかわかりませんでした。今後、「陰影」や「色合いの変化」など一つでも多く学びたいと思っています。よろしくお願いします！
- 環境作り。障がい者に限らず、美大卒業生でも持続可能な環境を作る事が大事です。その環境を提供出来る事業所や施設が増えていけば良いと感じます。その為には、それを指導する人材の育成と、それを雇用する環境も整わなければならないのかなと感じます。
- 卒業後の社会参加や活動の場としての生涯学習支援の体制作りは大切だと思う。多種多様であれ必要も感じる。そこで学び、活動するだけではなく、社会参加(対価を得る等)に結びつく支援ができるが良い。



## ●全体的な感想について

- また参加したい。絵を描いたり貼ったり出来たことが良かった。福祉村で出来ないこと(プラ板を作ったり、つなげて作ったり)が出来て良かった。
- 前回よりは3回目の方が絵を描く時間の配分ができたと思う。
- 絵が良かった。色が多くあって良かった。夕張展の絵が良かった。
- もっといろいろな人の話を聞いて、札幌や内地の美術館に作品を出したい。北海道の芸術関係の事にたくさん参加したいです。
- なかなか完成までさせたものは少なかったけれど、いろいろ体験出来ました。
- これまでに接したことのない画材に接し、楽しみました。
- 楽しかった。
- 学生さん達と楽しく学びながらできて良かったです。ありがとうございます。
- ありがとうございました。楽しかったです。
- 学生さん達といろいろお話出来て楽しかったです。
- 先の「ハート&アート展」でも述べたように、今までの作品を基にして、自分なりの想いを文書化できたらいいと考えております。私事ですが、2024年のカレンダーにも作品が載ること、誠にありがとうございます。
- 今回、素材の提供だけで、どの様な課題・方法・技法で進めれば良いのか提示が無かったので、それでもどんどん作業を進められる方は良いが、戸惑う方も多いのではないかと。結局、付き添ってきた各施設の職員の指導に委ねられる事になる。
- 楽しかった。キャンバス(三角)に描くのが楽しかった。
- 作業所以外でサークル的な活動ができる場所という感じがしました。関わりが他の人と(例えば職員や付き添いの人ではなく教大生と)できるともっと良かったと思います。どうしても職員や付き添い者が対応してしまっていたので、自分自身も反省点です。

# 森の岩ギャラリー OUR LIFE is OUR ART アンケート

## ●年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答	計
4	8	4	8	14	15	0	53

## ●職業

会社員・役員	公務員	自営業	芸術系	福祉系	学生	その他
9	7	0	0	6	7	17

## ●どこから来ましたか？

市内	道内	道外
42	11	0

## ●これまでに障がいのある人が創作した作品をみたことがありますか？

ない	ある
42	8

あかるいどう、森の岩ギャラリー(昨年)、当麻町、白老町、NHKの番組、クビドフェア、クビドギャラリー、栗沢市民S、岩見沢アール・ブリュットギャラリー、いわみざわハート&アート展、羽田空港、養護学校、函館市、特別支援学校、家

## ●本展覧会の感想

とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった	無回答
38	12	0	0	3

## ●ご意見・ご感想

- とても良かったですよ。サイコーでした。いろいろな作品がたくさんありました。楽しかったです。
- 見やすかったです。
- 個性があり、どれも良かったです。
- これからも続けてください。新たな試み、とても良いです。粘土とかも見てみたいと思いました。
- 今回、アートアカデミーに参加しました。その時もみなさんの作品を拝見しましたが、こうして素敵に展示してあると、また違ったものに見えます。これからもこのような機会をぜひ開催していただけたらと思います。学生の皆さん、ありがとうございました。
- すてきな作品がたくさん展示されていて、見ていて心があたたかくなりました。作品そのものも素敵ですが、展示の仕方も工夫されていて、いいなあと思いました。ありがとうございました。
- 素直に色で表現出来る機会がある事は素晴らしい。気持ちが明るくなる企画。次回のアートアカデミーも楽しみです。一般への参加企画はないのかしら。
- 私達は老人ですが、小さい子供達に見せたい。岩見沢の発展に教大岩見沢の皆さんいろいろありがとう。
- オレの作品が展示されて良かった。



- 毎度見ているうちに良さがわかるのでしょうか。「その人の心の絵」という感想です。
- 各自がそれぞれ心で目で見える事を描いてる事が胸を打ちました。
- 岩見沢SAにも行ってみようかと思います。
- 白い木が季節に合っていて素敵です。
- また観に来ます。
- どの作品も多種多様な描き方で、いろんな素材の選択・技法の駆使がなされ、大胆に生き生きと表現されたものでした。また、一見稚拙に思えるものでも、実際は作者の意図やこだわり・意味があり、どれも独特の世界観で面白かったです。発表(展示)だけではなく、実際に一緒に作品を作る事にも、大きな意味があるのだと感じました。
- 今回もたいへん素晴らしい機会であったと感じております。
- 皆さんの絵が素晴らしいですね。また見に来ます。
- 皆、個性的であたたかみのある作品ばかりです。
- 色々なカテゴリーの作品が沢山あり、とても見ごたえがありました。様々な活動に取り組みられていて、人の温かさを感じられるような作品ばかりで良かったです。
- 固定の概念に囚われず、自分のイメージをありのまま表現していて、とても勉強になる展覧会でした。
- プラスチック板の作品など、自身関わっていた頃とは違う新しい試みが見られてとても良かったです。また、中央のガーランドやラメを使用した絵画作品も多く、季節感を味わえる雰囲気新鮮でした。「いわみざわアートアカデミー」が今後も続き、「障害のない芸術活動」として発展して欲しいです。今年も素敵な展示をありがとうございました。
- 会場も素敵で、企画ととてもマッチしているので、引き続き来させていただきたいです。お疲れさまでした。
- 実際に子供と参加しましたが、様々な画材に触れる事ができ、楽しくチャレンジできました。
- いわみざわアートアカデミーに家族が参加したのは2回目で、アクリル絵の具や油絵の具・パステルなどを使わせていただき、展示されているのを見せてもらい嬉しく思います。本人の励みになると思います。
- 娘が参加させて頂いたので観に来ました。みなさんステキな作品にタイトルで良かったです。このような素晴らしい機会に参加できたことに改めて感謝します。言葉で上手く伝えられないけど気持ちが伝わる…、大切なことだと思います。
- 子供に普段経験できないことを体験させてもらい、とても感謝しています。何を描いてもよいところが大変おもしろいですね。
- 自分でこんなに表現していたのかと今観て良かった。また参加したいです。ありがとうございます。
- 楽しんでの作品に心が楽になりますネ。
- アートアカデミー終了後も、皆さんが創作を続けてくれると、この事業を始めた者としてうれしく思います。
- とても明るい会場で、そして円状で見やすかったです。
- 使われている色に暖かみがある。
- 様々な人の作品が見れて視野が広まった感じがしました。おもしろかったです。
- 今後の作品の参考にしたいポイントがいくつか見つかりました。
- とても個性あふれる作品ばかりで、楽しませてもらいました。
- 良かったです。
- すてきな作品がたくさんあって楽しかったです。アートアカデミー、素晴らしい取り組みですね。これからも応援しています!
- がんばったあとは伺えるのですが、作品がよくわからない。

いわみざわ  
アートアカデミー  
資料集



いわみざわアートアカデミー参加募集フライヤー

# いわみざわ アート アカデミー

参加者募集

受講料  
無料  
定員 20名

いわみざわアートアカデミー参加者作品 上場 春展「熊大」(部分) 2022年

障害のある人の学校卒業後の学びの場として、北海道教育大学岩見沢校の協力のもと芸術鑑賞、創作等について学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を開催します。

①創作体験・創作学習会 10/11・10/18・10/25 (いずれも水曜日) 13:30-16:30  
会場 岩見沢市生涯学習センターいわなび (4番目1丁目3-4)

②芸術鑑賞学習会 11/8 (水) 13:30-16:30  
会場 北海道教育大学岩見沢校シアタールーム (緑ヶ丘2丁目34) 等

③作品展示会 11/30 (木) -12/6 (水) 10:00-16:00 (最終日正午まで)  
会場 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」(緑ヶ丘2丁目34大学構内)

主催：岩見沢市  
令和5年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

## 創作体験・創作学習会・芸術鑑賞学習会 講義&体験 全4回

第1回~3回の講義では、北海道教育大学岩見沢校の学生と一緒に、様々な画材の使用方法について学びながら、実際に画材を使って制作を体験します。第4回の講義では、制作した作品のほか、大学の見学および実際の展示会を鑑賞し作品鑑賞についての理解を深めます。

会場：岩見沢市生涯学習センターいわなび 2階研修室5・6 (10/11、10/18、10/25)  
北海道教育大学岩見沢校 シアタールーム等 (11/8)  
時間：13:30-16:30  
講師：北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント美術研究室

① 10/11 (水) さわる  
② 10/18 (水) ひろげる  
③ 10/25 (水) みせる  
④ 11/8 (水) あじわう

**作品展示会**  
アートアカデミーで受講生が制作した作品の展示会を行います。  
会場：北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」  
期間：11/30 (木) - 12/6 (水)  
10:00~16:00(最終日正午まで)

**申込方法**  
参加申込書に必要事項を記入のうえ、下記提出先への直接提出またはFAXでご提出ください。メールで申込する場合は、メール文に必要事項を記載して下記アドレス宛てにお送りください。

申込書提出先：岩見沢市役所1階 福祉課 14番窓口  
Eメール：fukushicity.iwamizawa.lg.jp FAX：0126-24-0294  
申込期日 令和5年9月27日(水)  
【問合せ先】岩見沢市役所健康福祉部福祉課 (担当：松本・久保) ☎0126-35-4112 (直通)

### いわみざわアートアカデミー参加申込書

ふりがな	氏名
〒	住所
電話番号	自宅： 携帯：
FAX	
メールアドレス	
事前確認事項	参加する際に必要とするサポートがあれば☑をつけてください。 <input type="checkbox"/> 手話通訳 <input type="checkbox"/> 筆談 <input type="checkbox"/> 点字 <input type="checkbox"/> その他 ( )

いわみざわアートアカデミー報道

20231201 道央 (岩見沢・南空知)

### 花やネコ思いのまま描く 障害者の作品 岩教大で展示

【岩見沢】障害者が描いた絵画などの作品展「OUR LIFE is OUR ART」(市主催)が道教大岩見沢校内にある森の岩ギャラリーで開かれている。

市が今年10・11月に同校で「いわみざわアートアカデミー」を開催し、障害のある人たちが学生から美術表現を学んだ。受講生30人の140点を並べている。会場には丸形、三角などさまざまな形のキャンパスにアクリル絵の具で花やネコを描いた作品があるほか、プラスチック板に加熱して好きな模様を描き、加熱してストラップにした小物が目を引く。アートアカデミーに参加した同校4年3上南歌さん(23)は「思いのまま好きに描く受講生が多かった。習書にもこだわったので、楽しんでいた」と話している。6日までの午前10時~午後4時(最終日は正午まで)。入場無料。問い合わせは市福祉課、電話0126-35-4111(高木 緑) 2へ。

プラスチックに好きな絵や模様を描き、加熱した作品

いわみざわアートアカデミー展示会フライヤー

## いわみざわアートアカデミー作品展示会

# OUR LIFE IS OUR ART!

2023年11月30日[木]  
-12月6日[水]  
10:00-16:00  
最終日 12:00まで

森の岩ギャラリー  
(北海道教育大学岩見沢校内)  
入場 無料

主催：岩見沢市  
令和5年度文部科学省  
「学校卒業後における障害者の  
学びの支援推進事業」

本展示会では、岩見沢市が主催する「いわみざわアートアカデミー」の成果として、参加者によって制作された作品を展示します。

「いわみざわアートアカデミー」では、北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント美術研究室の学生が講師となり、参加者は制作だけでなく、画材の使い方や作品鑑賞についても学びました。

森の岩ギャラリー  
〒068-8642  
岩見沢市緑が丘2丁目34-1  
北海道教育大学岩見沢校内

様々な画材に自由にふれ、参加者どうの交流を楽しみながら感性のままに形に、完成したたくさん作品たち、どうぞゆっくりとお楽しみください。

問い合わせ先 岩見沢市健康福祉部福祉課  
0126-35-4112(直通)



# いわみざわアートアカデミー写真集

参加者の様子



いわみざわハート&アート2023とのコラボワークショップの様子



岩見沢高等養護学校での出前講座の様子



講座終了後の学生たちの反省会の様子



展示会作業の様子



令和6年3月8日

令和5年度文部科学省  
「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

## アートアカデミーの開催による障がい者の生涯学習推進事業 成果報告書

発行 岩見沢市健康福祉部福祉課

〒068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

電話 0126-23-4111 FAX 0126-24-0294

E-mail [fukushi@city.iwamizawa.lg.jp](mailto:fukushi@city.iwamizawa.lg.jp)



